

川でむすぶ



＜事業報告＞

新年のご挨拶

- 報告1：夏井川上下流の小学校を軸とした交流事業報告
- 報告2：小川町高萩地区学習支援事業結果
- 報告3：太田地区まちづくり委員会との交流事業報告
- 報告4：全国河川愛護団体交流会（山口県）報告【3名】
- 報告5：夏井川流域の会『水資源功績賞』受賞報告会・祝賀会
- 報告6：夏井川サイクリング
- 報告7：水現地視察（沼の平・福寿草まつり他）報告

＜寄稿＞

- 『夏井川河口部における河川堤防嵩上げ工事』

福島県いわき建設事務所 河川砂防課 安藤 隆浩氏

＜行事案内＞

- ★「防災講演会」開催案内（1月11日（土）15時～）
- ★いわき地域環境科学会主催の「発表会」（1月19日）で、本会事業の報告予定

新年のご挨拶

平成26年の新年を迎えて

副代表世話人 永井 精

皆さま、明けましておめでとうございます。お健やかに新春をお迎えのことと、心よりのお慶びを申し上げます。


さて、私たちのこの会も、発足以来、今年で14年目を迎えようとしています。それぞれの住まいの直ぐ近くを流れ、子どもの頃には釣や水遊びで慣れ親しんだ夏井川が、年々水の汚れがひどくなり、川筋や土手の堆積物やゴミが無残に放置されている様子を目にして、「何とかしなければ…」との共通の思いで集まり、語り合ったのが始まり、と聞いております。当初は、川沿いの部落や地域を訪ねて懇談会を開き、情報の収集や意見の交換を行いながら活動の輪を拡げて来ました。その間、いわき市地域ばかりではなく、上流の小野町や田村市地域にも、種々の分野で自然環境の保全活動や業務に携わっている人々や団体があることを知り、上下流での連携・ネットワークの構築を模索しました。ちょうどその頃、福島県が進めていた「水との共生プラン」施策

のモデル地区に夏井川が指定されたこともあり、私たちの運動の輪を拡げるべく、平成19年に「夏井川流域の会」を結成して、上下流全域での保全活動に取り組む態勢も整いました。本年も、昨年に引き続いて、当会の継続事業である ①夏井川本川27箇所の水質・水生生物調査（上記「流域の会」との共催） ②いわき地区内支川・支流の26時間継続水質調査 ③学校、子ども会、地域団体の環境学習への支援 ④川沿いの自然観察を兼ねての親睦サイクリング ⑤その他の活動に意欲的に取り組んで行きたい、と思っておりますが、皆さまには、興味深く、建設的なご意見やご要望などのご提案・ご提示をお願いしながら活動の充実を図りたい、と思っております。特に、次代を担う小・中・高校生の環境学習への支援と各地区の流域住民の方々との、これまでの調査データを基にした「懇談・意見交換会」の開催、などに力点を置いて活動を進めたい、と考えております。

「森・川・海笑顔がみえる夏井川」を合言葉に、私たち人間に、いや地球上のあらゆる生物にとって掛け替えのない「水」を巡る環境保全に、会員の皆さまとご一緒に今年も熱意を持って取り組んで参りたいと思っておりますので、ご支援とご協力のほどを宜しくお願い申し上げます。

<行事案内> ~~~~~

★「防災講演会」開催案内（1月11日（土）15時～）




防災講演会

津波、土砂災害、洪水！ “いざ”という時の避難はいつどのタイミングで？ 災いからわが身を守るため「地域防災」を市民の目線で考えてみませんか。

講演会

日時 平成26年1月11日(土)
15時～17時

場所 福島工業高等専門学校
専攻科棟1F



<講師紹介>
瀧本 浩一（たきもと こういち）
 山口大学大学院理工学研究科環境共生系学域 准教授
 学位：博士（工学）
 専門：防災教育、防災とまちづくり、社会知能情報学

主催 夏井川流域の会、夏井川上流域連絡協議会、夏井川をきれいにしてみま専科、夏井川流域住民による川づくり連絡会
 後援 福島県、いわき市、小野町、福島工業高等専門学校（申請中）
 協働 NPO法人ぼうぼうネット

お問い合わせ 高橋宗彦（☎070-6623-4342）、瀧本浩一（☎0246-22-2621）

< 事業報告 > ~~~~~

【報告-1】

夏井川上下流の小学校を軸とした交流事業

いわき市夏井地区の夏井小学校と夏井川上流域にある夏井第一小学校との交流を通じて、流域住民の相互理解を深めようと始めた交流事業（夏井川流域の会主催）は、3年目を迎えた今年度は、延べ3回の支援講座となりました。下流の夏井小学校は5年生児童14名が参加しました。

既に、前会報32号で、第1回目（6月24日、夏井川流域の概要、簡易水質調査などに取り組んだこと）及び第2回目（6月28日、新川源流探検、小川公民館前の川原での水生生物調査、夏井川河口視察等）の支援内容については、お伝えしておりますので、今回は、第3回目の交流内容についてご報告します。第3回目の支援授業は、上下流の小学校同士の交流事業として平成25年9月11日に取り組まれました。

下流の夏井小学校5年生14名と担任の岡野先生に当会のメンバー5名がバスで午前9時に学校を出発し、国道399号線を通って夏井川沿いに流れの様子や周囲の地形や植生等を見ながら遡り、小野町の夏井1小に予定の時間よりやや遅れての到着。夏井1小の5,6年生19名に迎えられました。最初に、夏井1小の校長先生から歓迎のご挨拶を戴き、続いての各学校の紹介では、予め用意された手作りの資料を基に、それぞれの学校の日頃の活動の様子等の発表がありました。まだ互いに硬い雰囲気でしたが、6チームに分かれてのゲームでは歓声が聞かれ次第に打ち解けていくのが感じられました。室内での交流が一段落の後、バス2台に分乗し、夏井川の源流になっている仙台平の水源地を目の当たりにし、夏井川の最初の一滴を共有できたものと思います。その後、入水鍾乳洞の見学、菅谷地区にある「分谷水」（夏井川と阿武隈川に流れが分かれる地点）の様子を観察し、夏井1小に戻りました。

戻ってからは、夏井1小に隣接する千本桜のある夏井川沿いに散策し、最後に感想を述べ合いました。互いの児童が、積極的に手を挙げて感じたことを述べる姿を見て、頼もしく感じた次第です。記念写真撮影後、下流の夏井小の児童は、バスにて国道49号線を通って午後3時頃、無事帰校することができました。



【報告-2】

小川町高萩地区学習支援【小玉川水質調査】

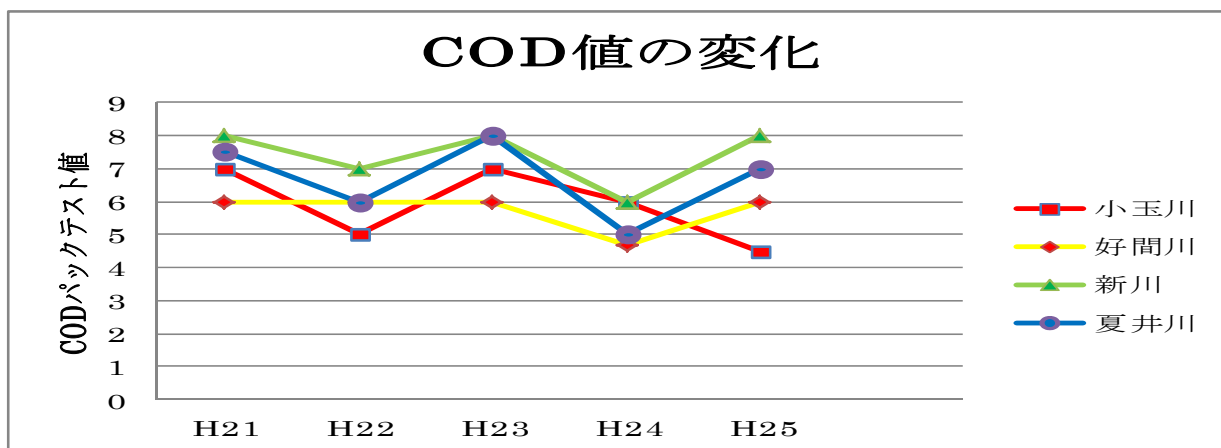
阿部 孝男

「小川郷農地水環境保全会」から依頼を受けて行っている小玉川の水質調査と水生生物調査も今年度で7回目を迎え、8月4日（日）に行ないました。

参加者は地区の児童・園児7名と保護者8名、地区の役員の方々5名が参加され、当会からは私を含め5名が参加しました。

小玉川の調査箇所は高萩地区の1ヶ所でしたが、他の川の水質と比較するため同じ夏井川水系の支流「好間川（北目）」「新川（アリオス前）」そして「夏井川本川（鎌田）」の全部で4ヶ所の川から採水し、それぞれの水についてCODパケットテストやアンモニア、透視度、導電率などを計測しました。

小玉川の5年間の水質の変化は下のグラフのとおりです。



—COD値の5年間の推移と近傍河川の比較—（数値が高いほど水が汚れています）

水質調査と併せて水生生物調査も行い、採取した生物は「ウズムシ」「ヘビトンボ」「カワゲラ」「ヒラタカゲロウ」などきれいな水に棲んでいる指標生物が多く、この結果から小玉川の水はきれいであることが判断されますが、「ヒラタドロムシ（少しきたない水に棲む生物）」なども見つかっており、比較的上流部に位置する小玉川と言えども生活排水の影響を受けているように見受けられました。

調査結果講評の後、パワーポイントで子供向け水環境に関する講義を30分ほど行いましたが、子供たちと保護者の方々は興味を持って熱心に聞いて頂きました。

中には2年～3年と継続して参加している子供たちもあり、水質調査と水生生物調査ともに興味を持ち、歓声を上げて参加している様子を見ているとやりがいのある事業であることもあらためて感じさせられました。暑い中参加された地区の方々とのスタッフのご協力ありがとうございました。



【報告-3】

太田地区まちづくり委員会との交流

阿部 孝男

南相馬市の太田川流域を主体に活動されている「太田地区まちづくり委員会」が先進地視察研修ということで、9月7日に遠路はるばる20名の方々が南相馬市からバスでおいでいただきました。

私たちの会の活動が先進地に値するのかどうかはさておいて・・・

一行は小野町の夏井地区千本桜等を見学された後、私たちは小川町の斜め堰で出迎え、斜め堰を見学した後、夏井川河口の様子（閉塞状況）や河口公園での私たちの活動等の説明を聞いていただき現地視察されました。

その後、新舞子ハイツでの交流会で昼食をとりながら私たちの会の活動状況概要と太田川の活動概要を互いに発表を行い、さらにお互いの活動内容や取り組みなどについて意見交換を行いました。

太田川流域でも未だ放射線量の問題を抱えており、流域内の放射線量をこまめに計測し「放射線量マップ」も作成・広報し、様々な活動に苦慮されているということでした。また、これは私たちの会でも同じなのですが、活動資金の確保に関する話題・意見が活発になされました。

今後もこのような交流を継続していきたいとの意思疎通も互いになされ、私たちも太田川流域の方々も交流の輪が広がったことを認識しました。



小川・斜め堰視察



夏井川河口公園視察



交流会（新舞子ハイツ）



交流会参加者全員で（新舞子ハイツ）

【報告-4】 全国河川愛護団体交流会（山口県）参加報告

昨年度、いわき市を中心に行われた「全国河川愛護団体交流会」は、今年度は、11月16日（土）～18日（月）にかけて山口県下関市及び防府市で交流会が持たれました。いわき地区からは、当会から6名、鮫川水系から2名の合計8名が参加、福島県全体では13名の参加となりました。

以下、参加された方々からの寄稿文を紹介します。

★田中博文さん

11月16日～18日（私は3日間）山口県交流会に参加しました。せせこましい福島県の町並みと違い、ゆったりとした街づくりの景観や、針葉樹がほとんどない山林などが印象的でした。時間に余裕がなく忙しいスケジュールでしたが、福島から大勢の参加に係わらず、山口県の方々には交流会・懇親会・視察地案内など手厚いおもてなしを頂き、とても印象に残る交流会でした。写真をご覧ください。



事例発表会（当会で阿部さんが発表）



1日目懇親会（下関市）



粟野川の視察（粟野川と共に生きよう会）



粟野川産品による昼食会（婦人会）



貸切電車での演奏会



激甚災害厚挟川復旧地の視察

★木町元康さん（鮫川河川敷公園管理運営協議会 事務局）

“平成25年度の「第13回全国河川愛護団体交流会 in 山口」には万難を排して参加します！”…
とってしまった手前、行かざるを得ない状況の中で参加して参りました。

初日、始発の特急で行くも上野駅から羽田空港までの乗り継ぎ時間に余裕がなく、バタバタで空港に駆け込み、何とか他の福島組と合流できました。山口宇部空港に到着後、バスで下関市へ移動中に立ち寄った道の駅で購入した“のしイカ”が非常に美味しく幸先良し！…という感じで本日の会場である豊北生涯学習センターに到着しました。ここで9県の河川愛護団体から約50人が集まり、活動報告などが発表されました。終了後直ちに宿泊する旅館へ移動。本日のメインイベント“交流会”が始まった。この「全国河川愛護団体交流会」のメインは交流会、活動報告はサブだから…と言うだけあって、最初から最後まで盛り上がりっぱなし。中締め後の二次会もいつまで続いて、いつ終わったのかも分らない。何とも凄い人達だ。

◆二日目、何事もなかったようにバスに乗り込み栗野川視察。昼食は“栗野川と共に生きよう会”の皆さんのご厚意により地元郷土料理の“おもてなし”を受ける。特に猪鍋が美味しかったらしいが、自分はシイタケが嫌いなため猪鍋は食べなかった。皆が食べ終わった後にこの猪鍋にはハクビシンの肉も入っていたことを知る。“えっ！2杯も食べてしまったじゃないか!!”…郷土料理というものはそういうものなのだ(笑)。昼食会場を出発し「金子みすゞ記念館」へ立ち寄り、その後JR美祢線乗車。何とこの電車2両編成の内1両を貸切にし、アコーディオン演奏により皆で歌いまくり、何とも贅沢なひと時でした。もちろん酒も持込みました。JR美祢線の復旧の説明や厚狭川激特事業の現地説明を受けたあと防府市へ移動し、ここでも大宴会が始まる。ここでは福島から参加のメンバーは皆、似顔絵を描いていただいた。これにも大満足でした。

◆三日目、我々4名（長谷川、田中、蛭田、木町）は最終日、この日はNPO法人 ぼうぼうネットの岩本さんに懇願し、萩市にある吉田松陰記念館に案内していただきました。また、その足で空港まで送っていただきました。岩本さんありがとうございます。次回福島での全国大会に来られた時には「倍返しだ！」。

◆最後に、自分の感想といたしましては「全国河川愛護団体交流会」は、ひたすら酒を飲み、観光し、他の河川愛護団体の方々と交流するという非常に贅沢な会であることが分かりました。また、この交流会で贅沢した分、弊社従業員に対する罪悪感は大きく、宇部空港で購入したお土産の額は相当なものでした。（記：平成25年12月24日）



2日目交流会（防府市）



2日目交流会で描いて頂いた似顔絵

★佐藤雅子さん

「 第13回全国河川愛護団体交流会に参加して 」

～ 地域と人と旅人と（第13回河川交流会イン下関市豊北町）

いつも収穫大の全国河川愛護団体交流会ですが、今年も盛りだくさんの歓待と私の脳みそに収まりきれないほどの知識や情報を得てきました。今回はいわきから鮫川の木町さん、蛭田さん、そしていつものメンバーのほかに阿部（孝）さん、田中さんが参加してくれて、これからのいわきの河川活動がますます楽しくなりそうです。

今年はプラスαの島根県訪問があって、忙しい研修でした。要点だけ記し、何かの機会に詳しくお話しできればと思います。

交流会

1日目 下関市豊北町 錦川の白井さんがCDにした「オオサンショウウオ讃歌」を歌いました。歌作りで貴重なオオサンショウウオの保護と周知と資金にしています。

2日目 もう使われなくなった保育所、旧豊北町栗野保育園で、栗野川と共に生きよう会の方々が地元の食材（モクズガニ、イノシシ汁、栗など）をご馳走してくれました。心こもった接待はイノシシ汁だけでなく元気な言葉かけや笑顔に満ちてとても暖かかったです。3・11以前のいわきにも地元自慢の山海物があったのを思い出しながら、何ベクレルを気にせずたくさんいただきました。

夜は福島県と親戚付き合いのようになっている防府市の皆さんに、福島県の現状をお話しました。福島県外に出るとなかなか放射能災害のことは理解しがたいと思いますが、70人もお集まりくださった方々は、初めて聞く話もあると質問が多々ありました。

3日目 石見銀山 中田商店のご主人とごま豆腐だけ作っている由来や世界遺産の町になったことを聞き、街の通りを散策しました。夜は雷がゴロゴロ鳴る松江市で島根県の世界遺産課の方とおいしい日本酒をいただきながら、島根県事情を聞きました。

初めての山陰地方でしたが、何度でも訪問する価値のものが多いと思いました。

金子みすゞ風に言うなら、「町も住む人も旅人も みんな違ってみんないい」



栗野町のみなさんのおもてなし料理



中田商店のご主人と手作りごま豆腐



出雲大社にて

【報告-5】

夏井川流域の会『水資源功績賞』受賞報告会

桶田隆司

平成25年度水資源功績賞の受賞（授賞式8月1日 太田国土交通大臣より）を記念して、平成25年10月25日にいわき市労働福祉会館にて、福島県（土地水調整課、県中地方振興局、いわき地方振興局、県中建設事務所、いわき建設事務所）といわき市（土木部長）から来賓をお招きして受賞報告会・祝賀会を開催しました。

報告会は、高橋宗彦代表から受賞報告、いわき市笹原仁一土木部長様から祝辞を頂き、福島県土地・水調整課の大橋一夫課長様からは、『上流域の「夏井川上流域連絡協議会」、中流域の「夏井川をきれいにしてみま専科」、下流域の「夏井川流域住民による川づくり協議会」等が中心となり、夏井川流域全体を活動の場とした「夏井川流域の会」を結成し、各種会議等での意見を基に、流域の団体や個人、行政機関の意見を聞きながら、今後取り組んでいく活動内容等をまとめた夏井川流域行動計画（夏川アクションプラン21）作成し、「森・川・海的笑顔が見える流域」の実現を目指して活動している。毎年、夏井川の水が源流から河口までどのように流れていくのかを体験するカヌーでの「水との旅」、1日の水質の違いを調査する「24時間一斉水質調査」を実施するなど、地域住民等と活発な活動を展開しているほか、川ばた会議と称した関係団体との勉強会や意見交換会を開催し、夏井川流域活動の情報発信、河川環境保全への提言を行っています。

平成23年からは、夏井川流域にあり、同じ「夏井」がつく小野町立夏井第一小学校と、いわき市立夏井小学校の連携学習の運営、講師を努め、夏井川の知識、交流を深めるなど地域にコーディネート役として一躍を担っている。』こと等が受賞の経過である旨のご挨拶を頂きました。

会員の阿部孝男さんが、パワーポイントで活動報告を行った後、祝賀会に入りました。祝賀会は、宮崎典男いわき建設事務所長（現いわき市副市長）の乾杯で始まり、滝根町ホテル保存会会長の先崎壽容氏が、「糍一升、シソの実一升に醤油一升を混ぜた自然食品の一升漬」を披露されるなど、賑やかに意見交換が行われました。参加者一同、今後も、『森・川・海的笑顔がみえる流域を！』合い言葉に活動を継続していくことを確認しました。

※授賞式は、平成25年8月1日に国土交通省で行われ、高橋宗彦代表、村上高一事務局長が出席し 太田昭宏大臣より表彰状と記念の盾が授与されました。



【報告-6】

夏井川水系サイクリング

阿部 孝男

10月27日（日）、恒例行事となっている夏井川川沿いサイクリングを実施しました。

今年は少しコースを変え、防災ステーションを出発し、夏井川左岸沿いに強風の中快適（？）にサイクリングを行いました。途中「鎌田親水公園」「河口付近堤防嵩上げ工事」を視察（何れもいわき建設事務所の桶田さんから説明をして頂きました）し、河口左岸の「沢帯（ザワメキ）公園」で昼食としました。昼食時には福島県のおいしい水の試飲会もあり、楽しいひと時を過ごしました。

帰路は再び同じコースを逆風の中ゴール地点の鎌田親水公園へ・・・向かい風は自転車の最大の敵です。途中1名が“足つた！”でリタイヤ！！みなさん、サイクリングの前は日ごろからの運動と十分なウォーミングアップを。

今年もお世話になったおはようサイクリングのみなさん大変お世話になりました。



出発式



堤防工事視察



福島の名水試飲



参加者全員で

【報告-7】 お知らせが遅くなりましたが、

水源地視察(沼ノ平・福寿草まつり他)

木田 都城子

平成25年3月30日・31日の二日間、水源地の視察として喜多方市山都町沼ノ平を訪問いたしました。こちらの集落はそばや福寿草・鏡桜などの自然資源を活かした集落づくりに取り組んでおり、30日は福寿草まつり開会の日にあたりました。今年の冬は雪が深く除雪作業が間に合わなかったため、2週間ほど開催が遅れたとのこと。残雪の残る斜面は福寿草の群生地となっており、咲き始めた黄色い花が待ちわびた春の訪れを告げているようでした。

福寿草会館という集会所では地域の方々が山菜などの販売をおこない、地元産の甘く香りのよいそばを味わうこともできます。福寿草群生地の保全作業も含めた一連の取り組みは補助などを受けることなく、集落の方々や応援する人の手により運営されています。集落の高齢化・過疎化が進む中、自らの手で維持と活性化を図っている方々との交流は私たちにも参考になるところがあるのではと思います。

翌日は喜多方市内で願成寺の国重要文化財、木造阿弥陀如来像(会津大仏)や伝統工芸の漆器工房などを見学し、会津まほろば街道や漢字のまちづくりといったまちづくりの取り組みに触れる機会にも恵まれました。

昨年初夏に喜多方で開催された県水環境団体交流会でめぐった場所を懐かしみながら、水が取り持つ新たな縁を感じた二日間になりました。

<行事案内>

★いわき地域環境科学会主催の「発表会」が（1月19日）で、本会事業の報告予定

～～～ 会員の皆様からの御寄稿をお待ちしております。～～～

会報 第33号

2014.1.1

発行：夏井川流域住民による川づくり連絡会

事務局：〒970-8017 いわき市石森2丁目9-17 永井 精

Tel.0246-88-7388